

ふくおか地域づくり

報告：ふくおか地域づくりフォーラム(2010.3.6)
第2回ふくおか地域づくり活動賞



古賀市青柳五所八幡宮



飯塚市庄内入水

築上町本庄

視点や発想変えたら地域は“宝の山”

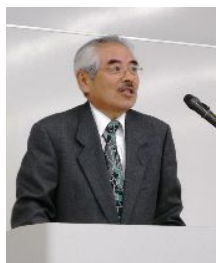
ふくおか地域づくりフォーラム

～地域資源を活かしたまちづくり～

□主催：地域づくりネットワーク福岡県協議会及び地域づくりネットワーク福岡県協議会筑豊ブロック会議
(事務局：福岡県企画・地域振興部広域地域振興課) ◇平成22年3月6日 於：福岡県立大学



□会長あいさつ
地域づくりネットワーク福岡県協議会 会長(県企画・地域振興部長) 佐藤 清治 氏



□開催地代表あいさつ
地域づくりネットワーク福岡県協議会 副会長(筑豊ブロック幹事) 大塚 洋一 氏

このフォーラムは、地域づくり活動を実践している方々の情報交換や交流を目的として開催。当日はNPOや行政等から約150名が参加。開会後第2回ふくおか地域づくり活動賞表彰式(6ページ参照)が行われ、その後、島おこしのリーダーである野崎隆文氏の基調講演、5人のブロック代表によるブロック別活動状況の報告。さらに4人のパネリストによるパネルディスカッションと続き、終了後は交流会で名刺交換や熱い意見交換が行われ、会場は大いに賑わった。

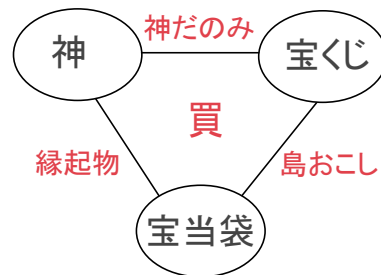
《基調講演(概要)》

●基調講演 野崎 隆文 氏 (有)「寶當」代表取締役社長(唐津市高島区長)

田川市は27年ぶり。私が住む高島は人口320人だが、宝当神社のおかげで、今では1日2千人の来島者の日もある。そのような日に島外に買い物に出かけた人は、船に乗れず、なかなか帰ってこれない時もある。私は今47歳。男の3番目として生まれ家を継いだ。高校通学のときは、帰りの船の時間が気になっていた。



「もう少し遅い船があれば」と日頃から思っていた。昔から高島には宝当神社という神社があった。私は結婚したとき、嫁さんに「嫁にきてよかった」と言わせたかった。そこで結婚と同時に、島づくりに取り組むようになった。もともと宝当神社は、地元の人あまり行くような神社ではなかった。宝くじを入れる宝当袋を作って売れば、少しは人が島に来てくれるだろうと思った。そうすれば船も増便するかもしれない。神社を奉って人にきてもらおうと思い、宝当袋を作ることに決めた。ある日、父が宝くじ50枚を買ってテレビの上に置いていたところ、何とそれが2週間後に1等の100万円に当たった。それは年末ジャンボ前の出来事だった。島の人は、最初は疑っていたが、事実を知ってからは、みんな宝当袋がほしいと言い出した。「それなら作るのを手伝って」と言って売り始めると、みんな熱心に手伝ってくれるようになった。販売利益は島おこしに。その後、宝当袋を作るのを手伝っていた2人の島のおばあちゃんが、年末ジャンボを生まれてはじめて買った。何とそのおばあちゃん2人とも10万円が当たってしまった。私は当たらなかったが・・・(笑)。僕は当たらなくてもよい。来島者に当たってほしいというのが私の願い。1999年の暮れには1億5千万円当たった人が来島。当たりくじのコピーが封筒に入れてあり、恐る恐る封筒をあけたら、何と出てきたのは 2千円。



コンピューターの2000年問題にかけて、島の2000年問題と言って島中大騒ぎ。宝当神社の名前を付けたのは我々島民の先祖。その宝当神社の「宝当」から「宝くじ」がイメージでき、この二つを結ぶ線上に「神だのみ」がある。この神頼みの支えとなるものが、私が発案した「宝当袋」である。この一点を考えたことで宝当神社と宝当袋を結ぶ線上に「縁起物」が現れ、同様に、宝くじと宝当袋を結ぶ線上には「島おこし」という言葉が浮かび上がった。この宝当神社と宝くじと宝当袋を結ぶ三角形の中に、宝くじを購入する人々のマーケットが存在する。そのマーケットに働きかけることで、この島が活性化するのではないかと考えた。その後、宝当袋だけでなく、様々な宝当グッズを遊び心も取り入れ製品化し、販売したところ来島者が大幅に増えた。平成17年から島で宝くじを売ようになったが、その年の年末ジャンボの12月には4万人が島を訪れた。通常、定期船は6便だが、その時は3倍に増便。それでも足りないため、漁船が海上タクシーとなって参加。佐賀県内の離島航路は7つあるが、黒字は私たちの高島だけ。神社を中心に島おこしに取り組んできたことに御利益があったからだと思う。この島おこしの雰囲気や次世代に伝え、子ども達のために基盤をつくっていくのが私達大人の仕事。みなさん、視点を変えれば地域おこしは可能です。一緒に楽しみながらやりましょう！



●パネルディスカッション

〔パネリスト〕

小野原 久美子 氏 「学園&地域交流ネットワーク」世話人中野 浩志 氏(特活)「大牟田・荒尾炭鉱のまちファクラブ」理事長
森山 沾一 氏 福岡県立大学人間社会学部教授・田川元氣再生プロジェクト代表

野崎 隆文 氏 (有)「寶當」代表取締役社長

〔コーディネーター(福岡県地域づくりコーディネーター)〕

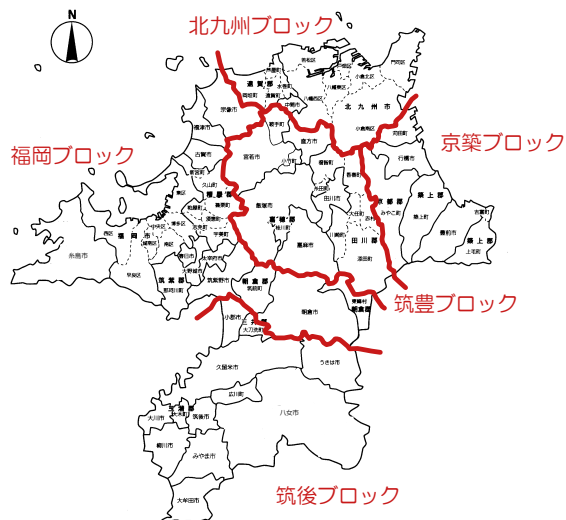
今泉 重敏 氏 (株)まちづくり計画研究所代表取締役

原賀 いずみ 氏 北九州インタープリテーション研究会代表



ブロック会議活動概要について

地域づくりネットワーク福岡県協議会では、平成20年度に組織を改編し、「北九州」「福岡」「筑後」「筑豊」「京築」の5ブロック体制としました。このブロックは県が推進する広域地域振興と同じエリアです。誌面の都合上ごく一部になりますが、ここでは平成21年度のブロック会議の活動概要を紹介します。



〔北九州ブロック〕

●H22. 1.13 (水) 18:00～ AIMビル(北九州市小倉北区)

テーマ『地域資源である商店街を活かしたまちづくり』

まちづくりの目的は団体、地域によって様々。黒崎では中心市街地活性化協議会を中心に、地域住民が「人情あふれる、おもてなしの街」をテーマに新しいお祭り等を企画してにぎわいづくりに取り組み、お客さんに「また来たい」と思ってもらえるよう心配りを大切にしている。小倉では、北九州青年みらい塾が地元の商店街や公共施設と連携して「ナイトツアー」を企画。夜のまち歩きを通して小倉の魅力を発信し、街を元気にしようと努めている。

長崎街道小倉城下町の会では、街の歴史や文化をテーマにしたまち歩きを通して、すぐににぎわいづくりにつながらなくても、歴史や文化の継承により、中長期的にまちづくりに貢献したいと考えている。大事なものは「まちづくりの主役である地域住民にとって住みやすい、誇りが持てる環境を作っていく」ということ。また、継続的に地域づくり団体間で情報交換していくことによって、まちづくりの活動を点から線につないでいくことも必要。黒崎では「地域住民が黒崎をどういう街にしたいのか」、コンセプトを纏めるために5ヶ月以上かけて話し合った。



長崎街道をテーマに小倉、黒崎、飯塚等での取り組みをつなぐとか、地域の花火大会や山笠等のお祭りに係わる人達をつなぐサミットを開くとか。団体によって得手、不得手もあり、情報交換の機会を継続的に設けてお互いの良いところを活かした協力関係を作っていく、そういうコラボも必要ではないか。

〔福岡ブロック〕

●H22.1.16(土) 14:00～ 美野島公民館(福岡市博多区) テーマ『住みよいまち、地域とは』 ～民が主役の地域社会づくりへ(稲杵氏)～

美野島では、新旧住民交流イベント「灯明ウォッチング」や住民アンケートを行い、商店街での社会実験(歩行者天国、通りの茶屋、不要品マーケット、ランチバイキング等)を経た後に本格実施。官も民も主体性を持って初めて協働ができる社会となり、地域づくり活動が実のあるものになっていく。人は地域の最高の宝であり、地域の人と一緒に共同作業し、一緒に時間をつくるのが、まちづくりでは大事。

●H22.2.13(土) 16:30～ アクロス福岡
テーマ『住みよいまちにするために自分たちにできること』 ～4班によるワークショップの結果～

〔歴史を活かしたまちづくりチーム〕

～地域の歴史を楽しく学ぼう 子供若者歴史広場～



〔都市と農村の交流チーム〕

～都市と農村いいところ交流広場～



〔環境美化チーム〕～そっとのぞいてみてご覧
「上流から海まで発見いろいろ」～



〔観光によるまちづくりチーム〕

～「感幸」駐車場整備プロジェクト～



〔筑後ブロック〕

●H22.1.8(金) 14:00～ 久留米商工会館 テーマ『筑後田園都市に於ける地域資源を活かした地域づくり』

【大木まちづくりセンター運営協議会】町民が持っている力を引き出し、その力をまちづくりにつなげることを基本に活動。ホームページや広報誌「まちセンだ



より」の発行、「さるこいフェスタ」をはじめとした各種イベントや町の清掃活動の事務局、「ありがとう券」という地域振興券の発行など、町民(団体)のまちづくり活動の活性化を支援する幅広い活動を展開。イオンスーパーセンター大木店内にまちづくり活動のサテライトを設置するなど、商業施設との連携実践。

【矢部川をつなぐ会】矢部川の水の恵みに感謝し、次世代に継承するために、流域で活動している10団体および行政・企業のネットワークを形成。「ゴミー斉調査」や矢部川流域の河川沿いをみんなで「ゆつら〜っと」(これは、筑後弁で「ゆっくりのんびりゆったり気分で」という意味)歩き、自然に踏みならした散策路をつくるフットパスの試みなどを展開中。ホームページや矢部川新聞による情報発信も。

【マメ行者プロジェクト実行委員会】小郡市を拠点に活動。食生活を見直し、生きる力を身につけることを目的としたキャンプやイベント等の活動に取り組む。イベントの参加者募集の広報手段として、SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)と呼ばれる、筑後地域の会員制のインターネットサイト「ちっこねっと」を活用しているほか、他市の教育委員会の広報に掲載したことが大きな反響を呼んだ。

●H22.3.27(土)

13:00〜「交流いちば かつぱ洞」及び「久留米スカラ座」

テーマ『中心市街地の商店街における住民等の交流の場や市民活動拠点のあり方』久留米市民活動サポートセンター「みんくる」見学後、「交流いちば かつぱ洞」で交流会を開く。



〔筑豊ブロック〕

●H22.2.8(月) 18:00〜 直方市中央公民館

テーマ『地域資源を活かしたまちづくり』

地域資源を活かしたまちづくりを、実際に進めるうえで、活動テーマもエリアも異なる各団体が、共通する課題に向けて、相互に補完しあい、連携する可能性を探る観点から、特に『運営面での課題やテーマの共有化と団体間の連携の可能性』をテーマとしてグループ別にワークショップを実施。



〔まとめ〕地域資源での「連携」：筑豊には、様々な地域資源がある。例えば遠賀川や長崎街道、飯塚市の旧伊藤伝右衛門邸をはじめとした近代化遺産、川崎町の藤江氏魚楽園などの自然や歴史・文化など。これらが点在しているだけでは、効果的に活かしにくい。点から線へ、そして面へとつないでいく「連携」の視点が地域の宝を活用する上で重要。

団体の課題解決のための「連携」：会員や参加者が少ない。特に若い人や活動資金が少ないなどの共通の課題がある。団体相互が連携することにより、モノと人をうまく使えたり、行政職員など幅広い範囲の参画を促すことにより、助成金の活用や諸手続が円滑にできるなどのメリットがある。実際に、個々の団体は小さくても、連合をつくり、地域全体で取り組むことで、団体の枠を越えた活動をしている例や、外との交流によって、自分たちの活動を見直す契機にしているなど会員や参加者不足を補う事例が紹介された。



●H22.2.21(日) 14:00〜 イイツカコスモコモン

『みんなですすめよう「にぎわい」と「交流」のまちづくり』をテーマに 嘉飯都市圏活性化シンポジウムを開催。

〔京築ブロック〕

●H21.11.7(土) 13:00〜 サングレートみやこ(みやこ町) 京築ブロックの研修会と位置付け、『足元の宝で地域を再生』をテーマに、京築地域づくりフォーラムを開催。みやこ町の「吉田学軒顕彰会」との共催



で、県内全ての地域づくり団体に参加を呼びかけた。基調講演は東京大学名誉教授月尾嘉男先生。その後、地元の地域づくりリーダーによるパネルディスカッションを開催。ありのままの自然や文化などの資源をつなぐことが重要との意見で一致。



●H22.1.15(金) 15:00〜 三原文化会館(苅田町)

テーマ『地域資源を活かしたまちづくりと団体の交流連携』 地域のために課題を抱えて一生懸命に取り組んでいる団体がいる一方で、緩やかに楽しみながら活動をやっている団体もあり、そのような団体同士がうまく連携できる手法を考えよう。具体的には、各団体ともせっかく素晴らしい活動に取り組んでいるのに、お互いに情報が行き渡っていない状態である。団体の活動内容を紹介するポスターパネルを作成し、パンフレットと一緒に道の駅に置く方向で一致。



👉 第2回 ふくおか地域づくり活動賞

昨年度からスタートした「ふくおか地域づくり活動賞」。この賞は、福岡県内の地域づくり団体の中で、特に活動状況が顕著である団体を顕彰するというものです。平成21年度は新たに「ふくおか地域づくり活動賞」が追加され、グランプリは特定非営利活動法人北九州青年みらい塾に、奨励賞等は以下の団体に決定し、平成22年3月6日、福岡県立大学で開催された、ふくおか地域づくりフォーラムの中で授賞式が行われました。



【前列左右・後列】「活動賞」受賞団体代表出席者



●グランプリ〔知事賞〕：特定非営利活動法人 北九州青年みらい塾

民間有志が中心となって、北九州市の都市型地域資源をうまく活用した「ナイトツアー」というユニークかつ「北九州らしさ」を前面に押し出した活動を、広範囲（北九州市全域を対象）かつ継続的に取り組んでいることや、広報ツール（チラシなど）のデザインセンスの秀逸などが、評価されました。

●奨励賞〔協議会会長賞〕

【おおにし農業小学校】

地域の高齢者を「農業博士」（教える者）にして、農業教室を通じた都市住民との交流を積極的に図ることで、都市からの移住の誘因とし、さらに地域内のコミュニケーションを活発化させる取組が、市町村合併後の過疎・中山間の地域振興にも資するという点で、評価されました。

【われら海岸探偵団】

組織発足以降、海岸のごみ拾いというボランティア活動を粘り強く100回も続けていることや、「ごみがどこから漂着しているか」など、環境問題に活動を昇華させている点及びこれら活動を通じた取組のネットワークを拡げていることが、評価されました。

●ふくおか地域づくり活動賞

団体名	活動概要
大熊くまわり会	地域の営農組合員、家族及び地域の有志により結成した団体で、主に北九州市の消費者をターゲットに、田植え・稲刈り・餅つきなど、稲作行事にかかる交流会を開催している。平成17年以降は、農業体験に加えて「地域の生き物調査」、19年以降は、耕作放棄地の再生（ビオトープ整備）にも取り組んでいる。
大野城市南地区コミュニティ運営委員会	大野城市と共同で、地域における高齢者向け移動支援、具体的には、地域ボランティアも関わった無料バス「ふれあい号」の運行に積極的に協力するとともに、その他のスポーツ・文化活動にも取り組んでいる。
唐津街道姪浜まちづくり協議会	古い町屋・寺社等が残る唐津街道沿い（旧姪浜宿周辺）のまちづくり資源を調査し、地域内外にその魅力を発信し、地域固有の街並みを活かしたまちづくりを推進するため、マップ作成・街並みウォッチング・講演会・コンサート・パネル展等の幅広い活動を実施。
郷土史のぼせもん倶楽部	福岡市中央区当仁地区において、学習会、出前講座・語り部養成、探訪ツアー、マップ・冊子の制作やイベント協力等を通じて、郷土の歴史を「学び・語り・伝える」活動を実施している。

団体名	活動概要
スローフード協会 筑後平野	一大食生産地である筑後平野において、生産者と消費者・市民をつなぐ役割を担う地域に根ざした団体として、筑後地域の生産者・市民有志・商店街有志が集まって、毎月、生産者の畑・牧場に出向き、収穫体験や生産者の話を聞く会を開催している。
田川地域観光推進 会議	田川地域の市町村の枠組みを超えた活性化のため、産・官・学・民協働により、ボランティア委員が中心となって、人材の発掘、PRツール作成などの情報発信、旅行商品の提案などを通じて、観光振興を産業の基軸とした地域活性化に取り組んでいる。
特定非営利活動法 人 グリーンバード 福岡チーム	キレイな街が人の心もキレイにする、というコンセプトのもと、定例活動としてのそうじ活動（朝掃除（月・木）、夕方掃除（火）、第3土曜日掃除ほか）を核に、「福岡うち水大作戦」など、その他協働イベントも積極的に企画・参加している。
肥後街道宿場町運 営委員会	江戸時代からの古い街並みが残る大川市小保・榎津地区において、地域住民による運営委員会方式により、市内外の幅広い世代の方に、街並み散策をしていただき、伝統ある「職人の技」に触れてもらうため、作品展・スタンプラリー・手作り行灯の設置・チャリティー等の幅広い活動に取り組んでいる。
堀のまちおおき・ さるこいフェスタ 2009連絡調整会	県筑後スローフードフェスタの一環として、大木町における4地域・8団体が主体となり、参加者に町内8Kmコースを歩いてもらい、参加者と地域住民及び地域内との交流を深めてもらうために、「さるこいフェスタ」を開催。参加者への「おもてなし」としての花の植栽、郷土料理の提供などを実施している。
八女・本町筋を愛 する会	八女福島の白壁の古い街並み保存及び活性化を図るため、植栽、町屋まつり、花にあふれたまちづくり運動、子ども俳句大会、文化池の浄化などの活動を、地域の学校・企業・各種団体と連携して実施している。なお、2009年度は、和蠟燭のみで舞う創作舞踊「八女のちょぼくれ」公演を九州で初めて上演。

以上10団体（団体名：アイウエオ順）

《グランプリ〔知事賞〕／特定非営利活動法人 北九州青年みらい塾の活動》

北九州ナイトツアー2009夏(和を楽しむコース)



北九州ナイトツアー2009夏(小倉祇園太鼓コース)



北九州ナイトツアー(特別編)



H22年度の北九州ナイトツアーについて

〇「北九州ナイトツアー2010」が目指すもの

小倉都心部だけでなく、市内でツアーを開催し、魅力を発信。

＜目標＞

1. ナイトツアーの認知度UP
2. 市内各地の市民やまちづくり団体、店舗を巻き込む

具体的には

- ①小倉都心部以外でもツアーを開催(若松など)
- ②積極的なPR
- ③他団体と連携
- ④地域資源(産業遺産、歴史など)を活用したツアーの実施



地域づくりネットワーク福岡県協議会のHP

<http://www.chiikinet-fuku.org/>

《地域づくりネットワーク福岡県協議会の活動とは?》

会員団体等に対し、次の活動を行っています。

- 1) 地域づくりコーディネーターによる地域づくり活動へのアドバイスや情報提供。
- 2) 協議会会報(本誌)やホームページを通じた広報活動。
- 3) 研修交流会(講演会・パネルディスカッションなど)の開催による、他の地域づくり団体との交流機会の提供。

